『シナクサール』の編纂過程に関する研究
― 14 世紀コプト聖人の列聖を中心に―

辻　　明日香
東京大学東洋文化研究所　助教
［現　日本学術振興会特別研究員（PD）］

緒言―研究の背景と狙い―

東方諸教会におけるシナクサリオン synaxarion とは、聖人の略伝を固定祭日の順に編纂したものである。コプト教会のシナクサリオン（以下アラビア語表記に従いシナクサール）は、ビザンツ教会のシナクサリオンを参考に 13 世紀前半頃編纂が始まり、複数の編纂者の手を経た後、14 世紀に現在伝わる形となったと言われている。

『シナクサール』の編纂者たちは、過去の聖人の名とともに、その時代に人々から聖人として崇敬された人物の名を順次追加していった。本研究では、その歴史的全容に不明な点が多い、コプト教会の列聖手続きの一端を明らかにすることを視野に、13–14 世紀にかけ『シナクサール』に追加された聖人の情報を分析する。聖人に要求された素質や行いを検討することで、ムスリムとキリスト教徒との関係が悪化した時代において、エジプトのコプト教会信徒が置かれていた状況や、教会の迫害に対する捉え方といった点を考察する。

研究の方法

『シナクサール』の校訂は複数存在するが、いずれの校訂本も編纂方法に問題があり、イスラーム中期以降の聖人の項は校訂時に削除された可能性が高いと以前から指摘されている。そもそも、『シナクサール』の手稿本には、それが写された時期や場所により、13–14 世紀の聖人に関する情報の異同が見られる。

本研究は①校訂本（Forget 版、カイロ版など）から 13–14 世紀の聖人について情報を抽出する。入手できた手稿本からは、校訂本から削除された（と言われている）聖人の情報の確認につとめる。②個別の聖人伝が現存する聖人については、『シナクサール』の記述と聖人伝における記述とを比較する。②からは『シナクサール』に聖人の名が記載されたために個別の聖人伝が著されたのか、あるいは『シナクサール』に名を記載させる働きかけとして聖人伝が著されたのかという問題を検討する。

結果と考察

① Forget 版は 1380 年代の殉教者に関する情報に詳しく、また 14 世紀前半の教会封鎖問題に関する記述が確認された。その他の校訂本は、13–14 世紀の情報に乏しい。取り寄せた手稿本の間では、以下に述べるように情報の異同が見られた。

② 個別の聖人伝が現存する 13–14 世紀の聖人 8 名のうち、4 名（没年 1287–1386）については『シナクサール』にて名が確認された。残り 4 名のうち、ルワイスと総主教マッタオス（没年 1404, 1408）は現代においても高名な聖人であるため、『シナクサール』に名が記載されていないことは不自然である。

『シナクサール』の主要部分は 1317 年から 1354 年の間に完成したと考えられている。15 世紀以降の手稿本には、1380 年代に死去した聖人や殉教者の名が確認される。上記の 2 名は 15 世紀初頭に没している。すると、1354 年から 1380 年代後半までは『シナクサール』に聖人の情報が追加されたものの、14 世紀末には現在の形となり、その後情報が追加されることはなかったと看做される。

『シナクサール』と個別の聖人伝との関係であるが、1287 年に没した聖人、ハディードについては『シナクサール』の手稿本により 2 種類の記述が見られ、項目がない手稿本も存在する。パターン A はハディードの読心能力について述べ、パターン B はハディードの予言や治癒能力について述べる。パターン A と B とではハディードの聖性や奇蹟の特徴について捉え方が異なるわけであるが、これら要素はすべて『ハディード伝』「奇蹟録」（エジプト、スルヤーン修道院所蔵、未校訂）に登場する。ゆえに、いずれの能力もハディードの美徳と

して有名であり、『シナクサール』へハディードの項を追加する際に、編纂者がその一部を選んで記したため、差異が生じたと推察される。なお、1317年に没した聖人、バルスーマーについては『シナクサール』の各手稿本において記述がほぼ一致している。

次に『シナクサール』と『バルスーマー伝』の記述を比較したところ、両者の内容は大筋において一致しているものの、『シナクサール』はバルスーマーの聖性を吟味し（『バルスーマー伝』には記述がない）、また、14世紀前半の教会封鎖問題について、より詳しく描写している。そのため、『シナクサール』が『バルスーマー伝』の単なる要約であるとは考えにくく、W. E. Crum が指摘したように、両者には共通の情報源があると看做した方が自然である。『バルスーマー伝』手稿本の奥付には、「この聖人伝は『説教集』をもとに編纂した」と記されている。この『説教集』こそ、両者共通の情報源である可能性が高い。

以上を踏まえると、現時点においては、『シナクサール』に聖人の名を記載させる働きかけとして、個別の聖人伝あるいは聖人の業績集が著されていたことが示唆される。ただし確証はないため、今後は祈禱書といったコプト教会の諸史料からこの問題を検討していきたい。

先述のように、『シナクサール』は13–14世紀にエジプトで起きた歴史的事件について言及している。これはコプト教会の正史、『アレクサンドリア総主教座の歴史』における沈黙とは対照的である。また、『シナクサール』は聖人の事績を記すときも、その時代背景について正確かつ詳細に記している。これら描写の大半は教会への迫害、改宗、そして殉教に関わるものである。

中世のキリスト教世界において、知識人とは概ね聖職者であり、彼らは著述目的、そして対象読者に応じて年代記と聖人伝とを使い分け執筆していたとされる。14世紀のコプト教会においては、自分たちの置かれた状況を描写するには年代記よりも聖人伝の方がふさわしいと看做されたのであろう。『シナクサール』は過去の聖人を讃美するとともに、政権やムスリムとの関係が悪化した時代においても、神は聖人を遣わしていることを示し、信徒を慰め鼓舞するために編纂されていたと理解される。

要　約

13–14世紀にかけコプト教会の『シナクサール（聖人暦）』に追加された聖人の情報について整理した。『シナクサール』は過去の聖人を讃美するとともに、エジプトにおいてムスリムとキリスト教徒との関係が悪化した時代においても、神は聖人を遣わしていることを示すために編纂されたと理解される。

謝　辞

本研究の遂行にあたり、公益財団法人三島海雲記念財団より学術研究奨励金を賜りました。奨励金によって海外の図書館における調査や文献の取り寄せ、国際学会における報告が可能となりました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

主要参考文献

1）*anon.*：*Kitab al-Sinakasar al-Jami‘ li-Akhbar al-Anbiya wal-Rusul wal-Shuhada wal-Qiddisin al-Musta‘mal fi Kana’is al-Kiraza al-Marqusiya fi Ayyam wa-Ahad al-Sana al-Tutiya*, 2 vols., Maktabat al-Mahabba, 1972.

2）J. Forget（ed.）：*Synaxarium Alexandrinum, Corpus scriptorum Christianorum Orientalium: Scriptores Arabici* ser. 3 t. 18, 19, 2001s, Typographeo Catholico, 1912.

3）A. S. Atiya et al.（eds.）：*The Coptic Encyclopedia*, 8 vols., Macmillan, 1991.

4）W. E. Crum：*Proceedings of the Society of Biblical Archaeology*, 29, 135-149, 1907.

5）D. Thomas and A. Mallett（ed.）：*Christian-Muslim Relations: A Bibliographical History* 4（1200-1350）, Brill, 2012.